



京野響輝さん・渡邊龍真さん



佐沢翼さん・藤井飛来さん



佐藤 慎さん・佐藤綾香さん



服部翔聖アディソンさん  
渡邊真咲さん・一関宇慧さん



渡邊龍光さん・松田 魁さん・坂田光聖さん

# この町の、 ここが入き!

参加者の皆さんに、五城目町の好きなおところなどを聞きました。



1 40人が出席し、五城目小学校階段教室でつどいを実施 2・3 五城目小6年生作成のメッセージカードが会場内に飾られ、出席者1人ひとりが返事を書きました 4 来賓の方々が、出席者の新たな門出をお祝い



出席者代表「誓いのことば」

## 生まれ育ったこの町へ、いつの日か恩返しを

私たちがこの日を迎えられましたのも、地域の方々のお力添えや、これまで育ててくれた家族のおかげと心から感謝しております。一昨年の春以降、新型コロナウイルスが流行し、誰もが想像していなかった「今」があります。経済は低迷し、緊急事態宣言やオンライン化など私たちの日常は大きな変化を余儀なくされ、未だに終息を迎えておりません。それぞれの思うことはたくさんあると思いますが、このような状況だからこそ、各々が将来を考え、協力しながらこの世の中を元気にしていければと感じております。予測がつかない不安の中、高校の卒業式を迎えた私たちですが、学生として勉学に励む人、すでに就職して仕事に奮闘する人など、置かれている立場は違いますが、それぞれが自身の目標に向けて、一歩ずつ歩み続けている最中です。



出席者を代表し、誓いの言葉を述べた服部翔聖アディソンさんと渡邊真咲さん

本日の会場となった五城目小学校新校舎は、もちろん私たちが通った学び舎ではありません。しかし、あえてここで迎えた本日のつどいは、とても意義のあることだと感じております。「いつか、この小学校に通う我が子を五城目町で育てることができたなら」と思った人もいるかもしれませんが、小学校を卒業して10年、小学校が新しくなることを想像していた人は、果たしていたでしょうか。町は少子化で一学年の人数も少なくなっており、小学校が地域のコミュニティとして、様々な機能を兼ね備えたものとなり、より一層、町民一人ひとりの繋がりが必要になりつつあります。5年、10年と町も人も変化していきます。一人ひとりが町に興味を持ち、知ることでもっとアピールできるものがあるかもしれません。そして、その役目を担っていくのが、これからの私たちだと思います。また、様々な機会が権利を与えられている責務を全うしていくことが、これからの私たちの課題でもあります。この「五城目町」から離れる人もいるかもしれませんが、ですが、私たちの「五城目町」に対する思いが失われることはありません。私たちは、たとえどんな形であれ、いつの日か恩返しができるよう精一杯、自分の決めた道を進んでいきます。この日を迎えた感激を深く胸に刻み、強い意志を持ち、これからの人生を歩んでいくことを誓います。

# 輝く未来へ、新たな門出

二十歳のひびき

8月15日、五城目小学校の階段教室で「二十歳のつどい」を行い、本年度の対象者61人のうち、40人が出席しました。

つどいでは、渡邊町長が「それぞれが思い描く将来像に向かって、ゆるぎない信念と決意で自分の人生の道を切り拓いてほしい」と式辞。その後、五城目第一中学校時代の恩師の京谷明仁さん、伊藤久さんの2人がスピーチを行いました。

最後には、出席者を代表して服部翔聖アディソンさんと渡邊真咲さんの2人が誓いのことばを述べました。

## 五城目小6年生が メッセージカードで祝福

今回のつどいに際し、会場となった五城目小の6年生が、出席者をお祝いする手書きのメッセージカードを作成しました。メッセージカードは会場内に飾られ、出席者はメッセージに目を通しながら、「これからどんな大人になりたいですか」「五城目のどこが好きですか」などの質問に「人を幸せにする人」「どこにいても森山が見えるところ」と、返事を書きました。

このメッセージカードは、つどいの終了後に、地域図書室「わーくる」内に飾られています。

